

平成29年度 教育事務事業点検評価報告書

平成31年3月
宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	2
事務事業点検評価書		
1. I－1 教育委員会広報誌発行	3
2. I－2 就学援助等事業	4
3. II－1 学校支援地域本部事業	5
4. II－2 公民館管理運営事業	6
5. II－3 図書館の基本サービス・行事の充実	8
6. IV－1 宮古島市民総合文化祭事業	10
7. IV－2 宮古島市neo歴史文化ロード整備事業	12
8. IV－3 博物館収蔵品目録等作成事業	13
9. IV－4 自主文化事業	14

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから9事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成31年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成29年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- I 「学校教育」 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進
- II 「社会教育」 みんなで学ぶ生涯学習
- III 「スポーツ振興」 生涯スポーツの充実
- IV 「文化振興」 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進
- V 「教育行政の充実・強化」 教育の使命を尊重する開かれた教育行政を目指して

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

(4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
饒平名 和枝	宮古島市文化協会副会長

2. 事務事業評価一覧表

評価書番号	所管課	事務事業名	評価
I-1	教育総務課	教育委員会広報誌発行	A(拡充)
I-2	学校教育課	就学援助等事業	A(拡充)
II-1	生涯学習振興課	学校支援地域本部事業	A(拡充)
II-2	中央公民館	公民館管理運営事業	B(継続)
II-3	平良図書館	図書館の基本サービス・行事の充実	B(継続)
IV-1	生涯学習振興課	宮古島市民総合文化祭事業	A(拡充)
IV-2	生涯学習振興課	宮古島市neo歴史文化ロード整備事業	A(拡充)
IV-3	総合博物館	博物館収蔵品目録等作成事業	B/E (継続/完了)
IV-4	文化ホール	自主文化事業	B(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

教育委員会広報誌発行事業

【目的・計画概要等】

○目的

市教育行政に対する市民の理解と協力を推進することを目的に広報誌を発行する。

○事業概要

- 1 名 称 ゆいのひろば
- 2 発行部数 A4版8ページ 1回の発行部数5,600部×6回
- 3 発行回数 年6回（5月・7月・9月・11月・1月・3月）
- 4 配布場所 各庁舎、各図書館、各公民館、総合博物館、文化ホール
※市立小中学校全児童生徒、多良間村教育委員会、県立青少年の家、市HPでも掲載。

【実施状況】

市内小中学校の児童生徒が元気に取り組んでいるユニークな活動や、様々な取り組みを紹介する「パニパニスクール」、市内の文化財を紹介する「文化財を巡る」などの連載のほか、特集コーナー、様々なイベントの様子を紹介する「Topics」など紙面の充実に努めた。 【特集】 ・第29号(2017.5月発行) 「平成29年度教育費当初予算」 ・第30号(2017.7月発行) 「夏休み直前特集」 ・第31号(2017.9月発行) 「子どもたちの表彰特集」 等	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	359,250 円
	計	359,250 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	「開かれた教育行政」を目指して、市民へ情報発信・周知していくためには、重要なツールである。	総合評価：B(継続) 「開かれた教育行政」を目指し、市教育委員会の事業や取組など「教育」に特化した情報を市民に親しみやすく発信する広報誌づくりに取り組んでいる。 小中学校児童生徒全員に配布していることから子育て世帯への周知は出来ていると考えるが、それ以外の市民への情報発信はHPや各庁舎や教育機関での配布だけでは十分とは言えず、今後とも取り組むべき課題と考える。
効率性	印刷製本のみでの予算であり、情報発信ツールとしては効率的である。	
有効性	教育行政の業務等を広報誌を通じて広く周知・理解し、より親しみやすい教育行政の遂行が期待できる。	

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

29年度は、第29号から第33号までを発行し、毎回表紙の色を変え、また時期に合わせたイラストを使用するなど子どもたちにも手に取りやすい工夫も見られる。2か月に1度の発行周期は時機を逸した記事掲載になることもあるが、定期的な発行を継続することで「開かれた教育行政」に繋がると考える。	総合評価 B (継続)
--	-------------------

【外部評価】

「開かれた教育行政」を目指して市民への情報発信ということですが、配布対象がいまのところ学校を通しての配布ということで就学児童生徒の父兄に限定されているのかなと感じます。ほぼ印刷製本費だけの予算のなかではしかたのないことと感じました。 ホームページ等に掲載しているということですが、このことに興味のある世代はやはり紙ベースだと思います。委員会の広報誌だけでなく一部を宮古島市の広報誌に提供するとかできないものではないでしょうか。予算の拡充がのぞまれます。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

就学援助等事業

【目的・計画概要等】

経済的理由によって就学困難と認められる児童又は生徒及び特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者に対し必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施を図る。

就学援助の内容

【要保護】医療費のみ（医療券発行）

【準要保護】学校給食費 全学年（実費）、医療費（医療券発行）

学用品費（通学用品費含む）小1：11,420、小2～6：13,650、中1：22,320、中2,3：24,550

新入学児童生徒学用品費 小1：40,600、中1：47,400

校外活動費（宿泊を伴うもの）小5：実費（限度額3,620）、中1：実費（限度額6,100）

校外活動費（宿泊を伴わないもの）全学年：実費（限度額 小学校：1,570、中学校：2,270）

【特別支援就学奨励費】学校給食費：実費の1/2

学用品費：実費の1/2（限度額 小学校：5,760、中学校：11,160）

新入学児童生徒額絵用品費：実費の1/2（限度額 小学校：20,300、中学校：23,700）

【実施状況】

<p>【要保護】認定者数 小：35人、中：21人 給付額 小：34,950円 中：45,050円</p> <p>【準要保護】認定者数 小：707人、中：361人 給付額 小：29,408,142円 中：22,995,656円</p> <p>※沖縄県子ども貧困対策推進交付金事業において平成27年度事業費からの増額分の3/4を県が補助：8,243,000円</p> <p>【特別支援就学奨励費】認定者数 小：49人 中：15人 給付額 小：882,555円（国庫補助：419,577円） 中：401,815円（国庫補助：196,025円）</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	8,858,602 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	44,909,566 円
	計	53,768,168 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	学校教育法に規定された制度であり、経済面から就学を保障する上で必要な支援事業である。	<p>総合評価：A</p> <p>保護者への周知活動の徹底に力を入れており、認知度が高まってきている。申請者数、認定者数とも増加傾向にある。</p> <p>平成29年度は新入学児童生徒学用品費の援助額等を見直すなど、給付額の見直しを行った。今後も、経済状況の把握や他市町村の状況等も参考にしながら給付額の適正な見直し等を図っていきたい。</p>
効率性	給食費や学用品費の支給など、学校生活に必要な経費に対する援助なので、経済的負担軽減に効率的であり有効性がある。	
有効性		

* 総合評価（A = 拡充 B = 継続 C = 改善 D = 廃止 E = 完了）

【内部評価】

<p>本事業については、周知活動による制度の認知度向上、入学準備金等の援助額や支給時期について実態調査に基づく見直しを行うなど、経済的理由による就学困難についての解消に向けて鋭意取り組んでいる。今後も、申請手続きの簡素化や事務の効率化も含め、本制度の充実に取り組んでいく。</p>	<p>総合評価</p> <p style="font-size: 1.2em;">A</p> <p>（拡充）</p>
--	--

【外部評価】

<p>沖縄県の児童生徒の貧困の問題が叫ばれているなか、必要な事業と考えられます。ぜひ制度の周知活動を徹底し取りこぼしがないような施策をすすめてほしいと思います。ハードルを上げずに必要としている児童生徒に平等にいきわたるよう、行政の細やかな対応をこれからもお願いします。</p>	<p>総合評価</p> <p style="font-size: 1.2em;">A</p> <p>（拡充）</p>
--	--

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

学校支援地域本部事業

【目的・計画概要等】

事業：

小中学校区を基本単位とした学校支援地域本部（地域協働本部）を設置し、地域コーディネーターを仲介として、幅広い地域住民等の参画を得て、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して、子ども達の成長を支える様々な活動を行い、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加や地域の教育力の活性化を図る事業。

計画概要：コーディネーターを活用し、年間を通じて必要に応じた継続的な活動を実施。
（授業補助等の学習支援、地域人材育成、郷土学習等）

【実施状況】

実施：	平良中校区学校支援地域本部（平良第一小、南小、平良中） 佐良浜中校区学校支援地域本部（佐良浜小、佐良浜中）	決算額（財源内訳）	
		国・県	1,083,000 円
配置：	地域コーディネーター2名	地方債	円
活動：	授業補助（プール学習支援） 郷土学習（地域行事・芸能指導、平和学習） ボランティアとの連絡調整等 その他（読み聞かせ、下校時パトロール） 延べ329回活動	その他	円
		一般財源	542,424 円
		計	1,625,424 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	学校と地域社会の連携体制を構築し、地域住民の参画を得て子ども達の学習支援活動や体験活動等を支援する取組を促進し、子ども達を健やかに育む環境づくりが必要である。	総合評価：B 地域が学校を支援することで、学校と地域間の信頼関係が築け、児童・生徒の地域への理解・関心を高めるとともに郷土愛を育むことに繋がっている。また地域コーディネーターを仲介として学校を支援することにより、教員の負担軽減に繋がり、児童・生徒への指導にゆとりを生む手助けとなっている。
効率性	学校と地域をつなぐ人材（コーディネーター）がいることで、それを達成するための一定の効率性が認められる。	
有効性	連携することで、子ども達だけでなく地域の教育力の活性化につながるとともに、その活動を通してコーディネーター自身の能力育成に繋がる	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

学校支援地域本部事業は、学校職員や地域の大人が子ども達と向き合える時間を確保し、地域の教育力の向上を図るため、地域住民がボランティアとして学校支援活動を行うことができる事業であり、両校区（平良中、佐良浜中）ともに、学校を含め地域の子どもは、地域で育てる意識も高まっており、今後も引き続き拡充していく必要がある。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

地域と学校の共生はとてもいいことだと思います。とくに合併によって校区の広がる伊良部地区や城辺地区は、校区が広がり学校の先生だけでは十分な活動ができないと思います。ぜひ予算の充実をはかり、できれば全校区にコーディネーターが設置できるよう検討お願いします。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 中央公民館

【主要施策】

Ⅱ. 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

Ⅱ-2. 公民館管理運営事業

【目的・計画概要等】

市民の学習ニーズに対応した事業を企画実践するとともに、市民への学習の場を提供し、人づくり・地域づくりに貢献する拠点としての社会教育（生涯学習）施設とする。

公民館名	主な講座名	サークル活動
中央公民館	花づくり講座・タブレット講座・メンズキッチン講座 全17講座	手話サークル虹 全23団体
城辺公民館	ウクレレ講座・夏休み子ども絵画教室 全19講座	城辺女声コーラス 全4団体
上野公民館	いきいきシルバー講座・夏休み親子陶芸講座 全16講座	上野三線クラブ 全5団体
下地公民館	親子クッキング講座・手作りバック講座・スマホ講座 全24講座	ヨガサークル 全5団体
伊良部公民館	琉舞講座・三線講座・フラワーアレンジ講座 全19講座	書道サークル 全7団体
久松地区公民館	着物リメイク講座・手作り石鹸講座 全15講座	風の神太鼓 全9団体
下崎地区公民館	笑いヨガ講座・有酸素運動講座 全8講座	琉球舞踊サークル 全2団体
西原地区公民館	ウェディングバスケット講座・新舞踊講座 全11講座	コーラスゆりの会 全3団体
	全129講座	全58団体

【実施状況】

	講座回数	募集定員	受講者数 (延べ)	決算額 (円)	決算額（財源内訳）	
					国・県	円
中央公民館	111	306	1,453	114,404,453	国・県	円
城辺公民館	95	157	984		地方債	円
上野公民館	91	217	998		その他	円
下地公民館	99	304	1,058		一般財源	117,403,445 円
伊良部公民館	82	261	1,741		計	117,403,445 円
久松地区公民館	49	196	605			
下崎地区公民館	50	130	752			
西原地区公民館	50	125	721			
合計	627	1,696	8,312	114,404,453		

※ 板倉区交流事業、博愛の日作品展示事業、白川町海山交流事業、台湾国際交流事業 計2,998,992円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	市民の教養の向上、健康増進を高めるため、講座やサークル等を推進している。地域の生涯学習の場として必要性は高い。	総合評価： B 近年、市民の学習意欲が高まっている中、市民が公民館に求める役割は年々増加傾向にあり、市民が満足感と充実感を求める講座・サークル活動内容の充実を図るとともに、市民が楽しく学べる生涯学習の場としての公民館運営が重要である。
効率性	平成29年度予算額での129講座は、市民の学習意欲向上、時代に対応した市民講座の開設と、健康増進効果意欲に寄与している。	
有効性	講座やサークル活動等を通し、市民の学習の場、ふれあいの場や憩いの場として、多くの市民が活用できるよう努める。	

* 総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

公民館は、子どもから高齢者を対象に地域住民に開かれた総合的な「社会教育施設」です。これまで各公民館で開催された各種講座や教室、サークル活動は市民のニーズに対応しており、市民からも好評を得ています。今後も市民の生涯学習の場として、市民が積極的に参加できる講座内容等の充実を図る必要がある。

総合評価

B
(継続)

【外部評価】

公民館は社会教育施設として、利用者に適切なサービスの提供や支援を行い「潤いと生きがいのある生涯学習社会」の構築に向けて重要な役割を担っている。
各公民館とも、地域の実情や住民の学習ニーズを把握し、幅広い年齢に対応した多様な内容の講座や教室、サークル活動が実施されている。住民が学び、ふれあいの場として活性化しており、地域の生涯学習の拠点、地域活動の拠点として大いに活用されている。また、受講者も増加傾向にあり充実した教育事業を展開していることが伺える。
今後とも住民のニーズや時代の要請に添った魅力ある講座の企画・運営に努め、全ての住民に学習する「場」と「機会」を提供していただきたい。また、受講者の学習活動の成果が社会において活用され「ひとづくり」と「まちづくり」の循環がなされるよう、市民協働のまちづくりを目指して社会教育施設の高い機能を発揮した公民館管理運営に期待したい。

総合評価

B
(継続)

【内部評価】

図書館は市民の学習や調査研究、課題解決を支援する生涯学習施設である。特に基本サービスである貸出サービスにおいては、図書館司書を中心に市民のニーズや時事に即した選書に努めており、平良館での貸出数増加につながった。北分館の閉館や、児童生徒へ図書館内での利用マナーを呼びかけた結果、一時的な利用者減少があり図書館全体での貸出数は減少したが、子どもたちの図書館でのマナーも向上し、読書環境の向上につながったと感じる。今後は新図書館開館に向けて、市民のニーズを把握し、更なるサービスの向上に取り組んでいきたい。

総合評価

B
(継続)

【外部評価】

平成29年度は、北分館の12月閉館に伴う稼働率の減少等で、全体としては利用者数や貸出冊数が前年度比で減少している。しかし、平良館では貸出冊数、利用者数、レファレンス数等は増加しており、図書館サービスの利用率が高いことが伺える。今後の伸び率は新図書館の開館に期待が高まっている。各館においては、図書館司書を中心に図書館サービスの向上に努めており、誰もが足を運びたくするような読書活動の推進、四季折々の創意工夫を凝らした行事等が開催されていることから、図書館の役割や機能の充実化が図られている点は高く評価できる。図書館理容については、内部評価にも挙げられているが、誰でも気持ちよく利用できるように、市民全体として利用マナーの向上を図る啓発活動も必要である。

今後とも多くの市民に愛される「知の拠点」づくりを目標に、様々な図書館サービスの質の向上に努め、地域や住民の生涯学習を支援する機関としての役割を担っていただきたい。また、「宮古島市子ども読書活動推進計画」の推進・充実に努め、各関係機関や団体等と連携・協力し読書活動を通して心豊かな子どもたちの育成に努めてほしい。

総合評価

B
(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

宮古島市民総合文化祭事業

【目的・計画概要等】

- 1) 児童・生徒の部 (主管：宮古島市教育委員会) 目的：「創造する市民の文化」をテーマに、児童・生徒による文化芸術の発表の機会を設けることにより、次世代の文化の担い手を育み、新しい文化の創造や先人達から培ってきた地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、宮古島市の文化を広く発信することを目的とする。
- 展示部門 (書道展・美術展・文芸展(俳句・短歌・作文・詩)・自由研究展・工作展)
 ○発表部門 (郷土のお話大会・音楽祭)
 ○表彰式
- 2) 一般の部 目的：「創造する市民の文化～文化の光 満つる島」をテーマに、これまで培ってきた芸能や技術の向上を図ると共に発表の機会を設け、多くの市民が参加し芸術文化に対する理解と認識を深めることを目的とする。
- 展示部門 (書道・美術・華道・写真・文芸・織物・生活文化・盆栽・園芸・茶道)
 ○郷土史部門
 ○舞台部門 (音楽祭・芸能祭・芸術劇場・こどもシアター)

【実施状況】

1) 児童・生徒の部		決算額 (財源内訳)	
		国・県	円
○展示部門	10月14～15日(書道・美術・文芸・自由研究・工作) 出品状況：小(2,687点)、中(818点)、高(138点)、特支(140点)		
○発表部門	11月5日(音楽祭)出演状況：440人		
○表彰式	12月2日(オープニングセレモニーで郷土のお話発表会実施)	地方債	円
2) 一般の部		その他	円
○展示部門	9月29～10月1日(書道 他10部門)		
○郷土史部門	10月1日	一般財源	2,139,961 円
○発表部門	10月15日 こどもシアター、11月12日 音楽祭、11月26日 芸能祭 1月20日 芸術劇場		
		計	2,139,961 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課) 評価・コメント
必要性	本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高い。	総合評価：A＝拡充 本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高く、市文化行政の要として文化活動への市民参加の促進、関係団体の育成や連携強化に努め、創造性豊かな芸術文化活動の活性化を図るための施策として重要である。 しかし、現在、児童生徒の部・一般の部と別日程で行っており、一堂に開催することで、島内の文化活動が広くより大きな効果が得られると思われるため、今後は合同開催へ向け調整が必要になってくる。
効率性	各々展示方・運営等は効率的に取り組んでいるが、児童・生徒の部、一般の部と日程が別なため、合同にするとより効率的になる。	
有効性	文化活動発表の場を設けることにより、数多くの出品、来場者があることから有効的といえる。	

*総合評価 (A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了)

【内部評価】

総合文化祭は、創造する市民の文化をテーマに児童・生徒による文化芸術の発表の機会を設けることにより、宮古島市の文化を広く発信し、広く児童・生徒へ参加を呼びかけることで、文化芸術のレベル向上やそれぞれの地域文化の認識を深める機会となっております。今後も宮古島市文化協会と連携し芸術文化に触れる場を提供し、次世代を担う子ども達へ伝統文化の継承を図ると共に、文化の担い手の育成に努め、新しい文化の創造や文化活動に市民が積極的に参加する場の拡充に努める必要があります。	総合評価 A (拡充)
---	-----------------------

【外部評価】

<p>JTAドームができて、これまで分散して開催していた市民文化祭が一か所でできたのは運営側にとってもまた見るほうにとっても良かったと思う。しかし無理やりドームに押し込んだ感が若干感じられた。きけば予算のほとんどが沖縄本島からのパネルのリース代金だという。未来創造センターで市民文化祭が運営できることを祈る。</p>	総合評価 A (拡充)
--	-----------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

宮古島市neo歴史文化ロード整備事業

【目的・計画概要等】

宮古島市では、平成17年の市町村合併に伴い県内最多の約150件もの文化財が宮古島市各地に点在している。その文化財を各地域ごとに散策コースとして策定し、広く周知活動を展開することで、宮古島市特有の文化観光を目的とした観光客層の集客増加が期待でき、地域においては、注目される観光資源が身近にあることで、文化財保護意識の向上など相乗効果も期待できる。

平成29年度は平良南・久松地区に所在する「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とする散策コース等の整備を行い、伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島特異の歴史と文化」を巡る新たな観光資源の一つとして広く活用する。

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・新規コース（平良南・松原／久貝コース）の策定追加。 ・宮古島市文化財WEB公開システムに、平良南／松原・久貝コースの追加、検索機能の追加、全方位画像コンテンツ等の追加更新を行った。 ・平良南／松原・久貝コースを12,000部作成した。 ・案内板の設置については、案内板10基を設置完了した。 ・毀損物件の復元等について、ミヤーツ墓の復元を行った。 	決算額（財源内訳）	
	国・県	26,376,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	6,595,200 円
	計	32,971,200 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	製作したパンフレット「綾道」もコンスタントに配布されており、市民で「綾道」を利用した史跡巡りも行われるなど、評価も高い。	総合評価： B＝継続 散策コースを策定することにより、各地域の歴史・文化の掘起こしにも繋がり、宮古島市の歴史・文化への観光需要を満たすとともに、市民の郷土史への関心や、文化財愛護精神の啓蒙にも繋がっている。
効率性	デザインなど事業内で流用できる様に実施しており、作業の効率化に努めている。	
有効性	宮古島市の歴史・文化への観光需要を満たすとともに、市民の郷土史への関心や、文化財愛護精神の啓蒙にも繋がるなど有効性は高い。	

* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

宮古らしさに特化した文化財を中心に伝統と民話に彩られたロマンあふれる散策コースを整備し、新たな観光資源として広く活用するため、これまでのコースに今年度は平良南・松原／久貝コースの散策コースを追加すると共に、文化財WEB公開システムへの追加更新及び案内板の設置、ミヤーツ墓の復元など宮古島市の歴史と文化を感じてもらおう事業となっており、今後とも市民の文化財保護意識の向上を図るためにも更なる拡充が必要であります。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

とても素晴らしい事業だと思います。これから宮古島は観光客が爆発的に増え開発が進んでいきます。今のうちに記録にとどめこれ以上の文化財の破壊をしないよう、市民のみなさんの意識改革、文化財愛護精神の啓蒙にとっても役立っている。ぜひ過去の出版分もふくめ増刷を希望する。市史編纂室の更なる増強を図るべき。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：総合博物館

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

博物館収蔵品目録等作成事業

【目的・計画概要等】

宮古島市総合博物館に収蔵されている資料の幅広い活用を図るため、収蔵資料の整理、デジタル化及び図録等の作成を行う。平成29年度は美術工芸目録作成を行う。

【実施状況】

美術・工芸品収蔵登録総数642点の総ての調査・整理を行い、公表可能な531点の目録誌200冊を作成した。	決算額（財源内訳）	
	国・県	2,872,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	719,000 円
	計	3,591,000 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	博物館法第3条に基づく事業	総合評価：B 聴き取り調査などの経験及び編集能力の高い者を雇用し、一定の資料を作成することが出来た。 しかし、美術工芸資料の調査研究は作品の持つ価値、歴史的背景など、専門性を有する知識が必要とされることから期間を要するため、収蔵品の調査研究は十分とは言えない状況である。 収蔵品の調査研究については、継続する必要がある。 また、博物館運営の効率化を図るためには、収蔵品の総括データベースの整備を行う必要がある。
効率性	収蔵品調査調整事業は効率性を求めるより、一定の成果が求められる作業であるとご理解頂きたい。	
有効性	収蔵品の目録は、一般公衆に対しての頒布の足がかりとなる得る。	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

収蔵品の整理及び分類は、市民に情報を提供していく上での基礎となる。収蔵品目録作製事業は平成24年度から実施され、平成29年度で情報基礎としての一定の成果を得るに至った。 しかし、既存の総ての収蔵品及び増加し続ける資料については、今後も調査研究・情報整理を継続して行く必要がある。	総合評価 E (完了)
--	-----------------------

【外部評価】

博物館収蔵資料の整理と目録作成事業は、目録作成とデータベース化が順次行われており、内部評価にも記されているとおり平成23年度から実施され、今回の「美術・工芸品資料」の目録作成により「情報提供基礎」として一定の成果を得たことは、博物館の「収集活動」「情報公開」という観点から高く評価される。この資料を通して、これまで以上に研究活動や、生涯学習、学校等の学習の場での活用が容易となり、本資料を手取る人々にとって新たな価値が生まれることが大きく期待される。関係者のご努力に敬意を表したい。 今後とも収蔵品の調査研究が十分でない資料や、増加する資料に対応するためにも継続を要する。更にデータベース化された情報のデジタル化を図ることも必要になってくる。最近では、資料の保存機能だけでなく、生涯学習社会の中で博物館の資料を積極的に活用する点が挙げられており、情報提供機能が重要視されている。デジタルアーカイブ（電子目録）の整備は、資料の継続的保存・管理、資料の検索性の向上や横断的な活用の利便性の点からその取り組みについて検討していただきたい。	総合評価 B/E (継続/完了)
---	----------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：文化ホール

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

文化ホール自主事業 「マティダストリートダンス2」

【目的・計画概要等】

「生きる力」を育むことを目的に学習指導要領にも取り入れられている「現代的なリズムダンス」を通して、学生による新しい地域文化の創造、交流、仲間との共感・一体感を育むことを目的に当該事業を開催する。

【実施状況】

平成29年8月24日～25日：ダンスキャンプin宮古島 ○ブラッシュアップワークショップ ○スキルアップワークショップ ※ダンスインストラクター6名によるワークショップ ○参加者：島内外の小学生から一般のダンススクール、及び中高ダンス部、または個人（80人） 平成29年8月26日：成果公演（マティダン2） 入場者数：200人	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,140,923 円
	計	2,140,923 円

【担当者説明】

区 分	説 明	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	劇場の役割として、文化芸術振興につながる事業は、劇場法で定められている。	総合評価：B 回を重ねるごとに、当該事業の認知も高まりをみせている。また、ワークショップ講師陣も本事業の有効性を高く評価し、参加を快諾するなど、事業展開に弾みを感じる。加えて、幅広い年齢層の参加があることから、文化振興の観点からしても、継続すべき事業だと考える。
効率性	ワークショップと成果公演を連続して行うことで、事業の効率を高めることができた。	
有効性	潜在力の開花、表現力のスキルアップなど、社会性を身につけるツールとして有効な事業と考える。	

*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

当該事業も2回目となり、ダンス指導者数を増やすことで、表現力のスキルをアップすることにつながり、ダンスのレベル向上に寄与できたと考える。また、島外地域との関わりが増えることによって、より広い視野を育むことが期待できる。	総合評価 B （継続）
---	-----------------------

【外部評価】

「マティダ」の舞台を通して市民の文化の振興・支援を図り多彩な事業を展開している文化ホール。自主事業の一つとして学生たちのために企画・運営された「マティダダンスストリートダンスII」は、参加者も多く好評を博している。子どもたちにとっては表現力のスキルアップやダンス力の向上にもつながり、自己表現の手段としてのダンスを通して、コミュニケーション能力を高め自己を見つめる機会となっている。 中学校・高校における学習指導要領（保健体育）で必修となっているダンス指導について、指導者不足が課題となっている状況の中で、プロの講師陣による指導の場が提供されることの意義は大きく、学校教育を保管する形にもなっている。担当者によると、子どもたちは舞台芸術を企画・運営する中で様々な職種の人とも関わり合い、総合芸術としての舞台づくりに触発され感性を磨いているというコメントからも、この事業の魅力的で発展的な要素が伺える。 今後、このプログラムに参加した子どもたちが、夢をはぐくみ、より良い影響を受けて地域の新たな文化的創造の担い手として活躍することを期待したい。	総合評価 B （継続）
---	-----------------------